

Noto PLUS

9



広報のと
第115号

平成26年9月1日発行

発行：能登町 編集：広報情報推進課
〒927-0049
石川県鳳珠郡能登町字宇出津新1字1-97番地1

☎：0768-62-10000
URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記⑨ いよいよ松坂の鈴屋へ

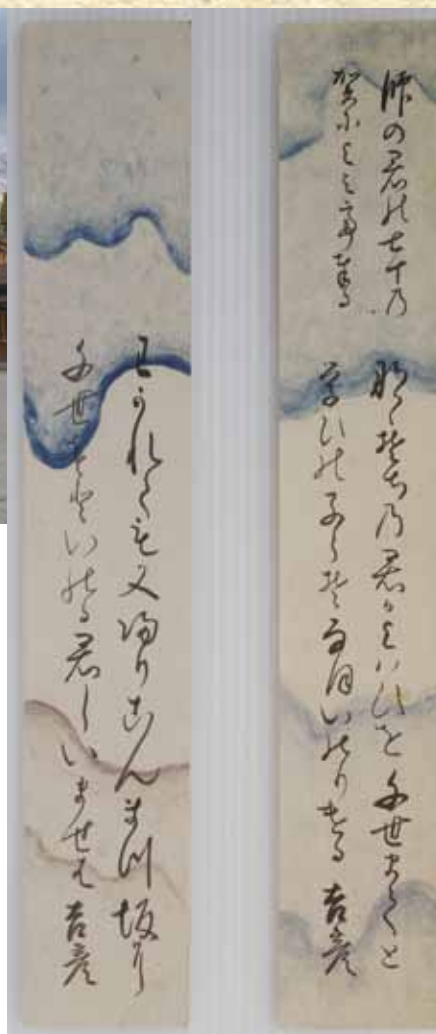


①伊勢神宮。吉彦は滞在中に、外宮を訪れ雨の降る中御田植神事を見学した。当時の吉彦は、その所作を「古式ゆかしく今風でなくおもしろい」と感じたようだ。神宮では「御田植る 時や来ぬると久方の 雨をうるほす 伊勢の神風」と詠んでいる。

松坂を訪れる直前には芝居見物や、寺での入浴などに興じている。吉彦は、さすがに宮参りを怠っていたと感じ、後日あらためて伊勢神宮の外宮内宮を参拝している。

②本居宣長記念館に所蔵されている吉彦直筆の短冊。

(写真は加藤さん撮影。)



作の君れそく
あつしとてふも
あつしとてふも
あつしとてふも

あつしとてふも
あつしとてふも
あつしとてふも
あつしとてふも

石風呂に入ろうと3、4人で蓮台寺という寺に着きました。風流人の集う静かなところのようです。僧に案内され「穴風呂」に入り時を過ごしました。お寺の座敷で茶飯、筍などをいただき、暮れ方に帰りました。帰り道、寺の開帳が賑やかで、出会う提灯の灯りの数を数えながら宿に帰りました。当時世義寺だけでなく多くのお寺でこのような風呂が営業されていたようです。

6月2日、いよいよ松坂の鈴屋に行くことに決まりました。はつきりした道筋も住まいもよくわからないので、久貞が案内人を同行させてくれました。大変気を配ってくれる気持ち嬉しく思います。道すがら名所旧跡の案内を受けながら昼ごろ到着しました。

松坂の久貞の知り合いで、魚町の松屋喜兵衛という人を訪ねます。年は40歳くらいで、趣味嗜を生業とし、正直な人のような印象を受けます。奥さんも30歳を半ばぐらいで大変和やかな人のように思えます。ここで髪を結って袴、神服を着て、本町の豆腐屋十助のもとを訪ねました。この人は宣長の高名な弟子で稲掛大平といいますが（後に宣長の養子となり、本居大平と名乗ります）。宣長への紹介のことを話し、この大平の案内で宣長と対面しました。

対面の様子は語られていませんが、ほかの資料からは土産の「くしこ」と、門人料と思われる銀8匁を納めています。くしこは干したナマコを串に刺したものではないかと思われます。原則として門人料（教授料）は半年銀8匁納める者と、その倍額の1分納める者がいますが、変動が大きいようです。吉彦は帰郷間際の7月16日に更に1分を納めています。1分は現在の1万5千円から2万円くらいだと思われれます。



寛政の旅人：加藤吉彦（かとう・えひこ）。寛政9（1797）年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社 12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄（かとう・みちお=写真）。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」9月号の印刷費は一部当たり32円です。



早くあかわり来ないかな

7月29日、松波保育園4歳児「ほしくみ」の園児13人が第二長寿園で利用者と一緒に流しそうめんを味わいました。

